

令和3年度 事務事業マネジメントシート

		事務事業No.		9-	2		
事業名	発達支援事業			会計 一般	款 3	項 2	目 1
政策	2 次世代を育むために			課名	子ども家庭課		
施策	2-1 子育て支援の充実			係名	発達支援室		

1 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	発達に支援が必要な子どもとその保護者。支援に携わる者	目的 (対象がどのような状態になっているか)	子どもの個々の発達に応じて、子どもやその家族が充実した社会生活を送ることができるようになっている。また、個のニーズに応じた適切な支援が行える人材が育成されている。
事業内容	発達支援室(福祉)・教育・保健がそれぞれ連携し、発達が気になる子への早期からの途切れのない支援を行う。 実施内容：発達に支援が必要な子どもに対して療育事業の実施や個別の指導計画を作成。また、発達相談・巡回相談においては、心理士と連携し、保護者への支援、専門機関との情報提供等の連携を行う。各園・小中学校にはCLM推進委員を置き、CLM巡回研修や推進委員研修会を実施し、気になる子への対応の仕方など保育士・教員のスキルアップを促す。			

2 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	指標名		令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	目標方向	令和7年度(目標)
	1							
	2							
	3							
	4							
	5							
			令和2年度(決算)		令和3年度(決算)		令和4年度(予算)	
全体事業費(千円) A+B			31,797		26,757		30,170	
財源 内訳	直接事業費 A		1,017		1,617		1,076	
	うち一般財源		31,797		26,757		30,170	
人件費(千円) B			30,780		25,140		29,094	
内訳	一般職員(人・千円)		4.5	29700	3.4	22440	4.22	27852
	臨時職員(人・千円)		0.6	1080	1.5	2700	0.69	1242

3 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善<※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A達成できた
		町関与の必要性	A町が担うべき	効率性	対象者の適切性	A対象者は適切である
					コストの削減	A削減の余地はない
総合評価	II 継続(事業内容の現状が最良でこのまま継続すべき)					

(2) 事務事業の業務改善について

①R3年度の改善計画	療育支援の重複がないようにして、支援対象者の幅を広げるとともに、保護者支援の充実を図る。	③取組の課題	子の発達に関して父の認識・知識不足が、母の負担増と子の発達に影響をしているため、父親への学習会等が必要になっている。
②R3年度に実施した取り組み	先輩ママであるペアレントアドバイザーを迎えて保護者学習会・交流会を開催し、保護者支援を行った。	④今後の改善計画	父親も参加できるような学習会・交流会の検討を行う。